

「若狭の自然の中で 青空教室＜不登校児童生徒支援事業＞～東海市との連携

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
一	一	23	18 (愛知県東海市)

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・課題を抱える児童・生徒が、若狭湾の雄大な自然の中で心身をリフレッシュするとともに、参加者同士や参加者とボランティアの交流を図り、チャレンジしようとする意欲を高める。
- ・課題を抱える児童・生徒が自然体験活動を通して、より良い効果を得られるようなプログラム開発を行い、近隣青少年教育施設・教育委員会・学校等にプログラムの提供及び発信をしていく。

◆期日・期間

2015年9月20日（日）～ 2015年9月22日（火） 2泊3日

◆連携機関 東海市教育委員会（適応指導教室：ほっと東海「横須賀教室」「上野教室」）

◆参加者分析

- ・東海市適応指導教室（ほっと東海）に参加している児童・生徒および適応指導教室（ほっと東海）スタッフの計39名が参加。
- ・児童・生徒は所属教室ごとのまとまりが2教室あるが、東海市内の小中学校で保健室登校をしている児童・生徒の参加を含め、全体が顔を合わせるのは今回が初めてであり、実質的に別個の3グループからなる。

◆企画のポイント

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
22																
九月二十日（日）		東海市出発	自然の家到着	はじまりのつどい	昼食		・アイスブレーキング	・自己紹介等（施設見学等）	・海をながめる（海とふれあう）	・浜遊び（つどい～大浜）	自由時間	夕食	ナイトタイム①	棚田キャンプ①	入浴	就寝
九月二十一日（月）	朝のつどい	活動①（選択） （海に親しむ） ・シーカヤック	朝食 ・シーカヤック	清掃 ・ボート（多目的）	・ボート（多目的）	・磯釣り（多目的）	・磯釣り（多目的）	・磯観察（大浜）	・磯観察（大浜）	・浜辺を歩く	自由時間	夕食	ナイトタイム②	・手紙を書こう（ブレイH） ・ボラとの語らい② ・夕日を眺める②	入浴（島の越も）	就寝
九月二十二日（火）	朝のつどい	活動③（全体） （海を感じる） ・カッター	朝食 （海を感じる） ・カッター	清掃 ・磯釣り、磯観察 なども可	昼食 おわりのつどい					東海市着						

- ・予めにパッケージされたプログラムを消化するのではなく、参加者個人が興味・関心を元に「自分で決めた」内容に取り組むことで自己決定能力、責任能力を育むことを目的に、選択プログラムを中心に日程構成を行った。
- ・参加者の普段の生活で海との関わりが薄いことより、臨海型施設の特徴を最大限に活かし海のプログラムを中心とした活動を実施した。

◆運営のポイント

- ・日常生活で基本的生活習慣を確固に確立していない子どもが見られることから、集団生活における基本姿勢は重視しつつも、ゆとりのある内容展開を持って参加者各人の負担が過大にならないよう配慮した。
- ・施設到着後より海を感じることのできるスロー系のプログラムからスタートさせ、段階をおってアクティブラーニング的プログラムへと移行し、児童・生徒の体力的・心理的なペース配分を考慮したプログラム構成とした。
- ・ボランティアと参加者が「1対1」の関わりをもつことが出来るように配置を考え、個々の状況や到達度を共有出来るように打合せを密にした。

◆安全管理のポイント

- ・ボランティアに対し、事前に講習を実施し、適切に人間関係を築けるように配置し、安心して活動できる配慮を行った。
- ・水辺活動については余裕を持ったスタッフ配置と入念な事前指導を行った。
- ・時間にゆとりをもってプログラムを立て、参加者達の準備をしっかりと取ることにより、安心して活動に参加できるように配慮した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

＜参加者＞

項目	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	94%	6%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	88%	12%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	59%	24%	17%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声

- ・海が透明だった。みんなのしそう。
- ・3回目だけど、毎年違うことをやって楽しかった。自然を感じました。
- ・とてもにぎやかな場所だった。
- ・優しい大人もいるんだなと思った。
- ・3日間は短いなと思いました。まだまだいろんなことをしたかったです。

4. 成果と課題

(1) ねらいについて

- ・今年度は、棚田キャンドルに参加すること、たき火を囲むことを大きな変更点として加えた。また、カッターの説明を短くしたり、1日で海の活動を2展開したりした。東海市側と3回にわたる事前の打ち合わせで提案したり要望したりを繰り返しながら当日を迎えることができた。リフレッシュ＆チャレンジのねらいのもと、自分で選択したことを実行することを東海市側は大切にされていた。前日決めたことを翌日実行することはほぼ全員が達成することができた。ねらいに即した行動ができたと評価できる。

(2) ボランティアについて

- ・昨年度に引き続き、参加者とボランティアをペアにして行動を共にすることができた。参加者の中には、なかなか馴染めず、ボランティアが苦労する場面も見受けられたが、打ち解けようと心遣いをしてくれるシーンを多く見ることができた。ただ、3日間と長く、気持ちが切れそうになる場面もあったので、2日目の夜にボランティアとミーティングを持ち、気持ちを引き締めて行動するよう要請した。

（3）本事業の今後の方向性

・今回、東海市側の学生ボランティアが出せない（結果的に1人）旨の連絡があり、若狭湾で多くのボランティアを用意することになった。教育事業として考えると、6年目に当たるこの事業は、一定の区切りの中で、東海市がボランティアを用意し、受け入れ団体の1つとしてくるようになることが望ましいといえる。若狭湾としては他の適応指導教室などと連携を模索する必要性も考えられる。ただ、工夫次第（棚田に行ってみる、楽しいカッターをしてみる）では、プログラム開発としての研究の余地はまだ残っているといえるので、次年度以降も東海市と連携しながら、取組を進めていく方向をまとめとしたい。

5. 活動の様子

